

公開授業研究会のお知らせ（第2次案内）

東京学芸大学附属世田谷中学校
校長 福本 みちよ

本校では下記の通りに公開授業と研究協議を行い、中学校教育の一層の充実と向上を図りたく存じます。つきましては、お忙しいこととは存じますが、多くの皆様にご参加いただき、ご指導、ご助言を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、新型コロナウイルス感染症対策を含め、今年度の公開授業研究会は動画による授業公開とオンライン協議会の形式で実施致します。

記

研究主題： 情報活用能力を育むモデル単元の開発

—資質・能力をベースとした教科横断による実践を通して—

日時： 令和3年8月28日（土） 9：30～12：00, 14：00～16：30（接続開始：9：00～, 13：30～）

内容： 公開授業および研究協議会（国・社・数・理・美・保体・技・家・英）

参加費： 無料

参加方法： ①申込：令和3年7月1日（木）～8月27日（金）正午まで HP (http://www.u-gakugei.ac.jp/~setachu/open_research.html)

HPの参加申し込みフォームより申し込みをお願いいたします。

申し込みしていただいた方につきましては、8月16日（月）9：00以降に授業動画 URL と協議会用の Zoom の URL をメールで送付いたします。

本校 HP の参加申し込みフォームにアクセスできます。ご活用ください。



②授業動画視聴：令和3年8月16日（月）9：00～当日17時まで

協議会当日までにメールで送付された URL から授業動画をご視聴ください。

また、協議会においては HP 上の「質問フォーム」で頂いたご質問を中心に協議を進めていきますので、ご入力いただければと思います（任意）。

③Zoom 協議会：全体会 Zoom と協議会 Zoom にて実施いたします。当日時間になりましたら、送付した URL よりお入りください。

※その他注意点：新たに Zoom アカウントを取得していただく必要はありませんが、ビデオ会議に必要な機材・環境については各自でご準備をお願いします。また、生徒の個人情報保護の観点から、授業動画視聴および Zoom 協議会における資料の保存とその再配布については、録音・録画・画面キャプチャ等手段問わず、一切禁止します。オンライン開催にあたり、不測の事態による接続の不具合、機器のトラブル等が起ることが考えられます。本校で補償の義務・責任を負うことができませんことをご了承ください。当日の開催の可否についても、変更があれば HP・メールにてお知らせします。

時程：

9:00 9:30 9:50 10:00 12:00
13:30 14:00 14:20 14:30 16:30

接続確認	全体会 趣旨説明	休憩	各教科の協議会 【午前：国・数・技・英】 【午後：社・理・美・保体・家】
------	-------------	----	---

公開授業一覧【学年・授業者、授業テーマ、授業概要、指導助言者】

	学年 授業者	授業テーマ	授業概要	指導助言者
国語①	第3学年 渡邊裕	ことばを見つめる～〈情報〉の収斂性と「タイトル」の機能～	送り手側の収斂と受け手側の需要の差に着目し「タイトル」について考えていく。「名づけ」や「意味」の生成も踏まえながら〈情報〉と文脈の関連をとらえていきたい。	千田洋幸 (東京学芸大学)
国語②	第2学年 加儀修哉	「〇〇の原因を探る」～筆者の述べ方で伝えるミニフィールドワーク～	「クマゼミ増加の原因を探る」（説明文）の段落構成、筆者の述べ方の工夫を用いて、身近なものごとの原因を調査し、発表し合う学習。	大澤千恵子 (東京学芸大学)
社会	第1学年 金城和秀	エモーショナルな表現活動を取り入れた社会科授業の実践	自ら設定した学習課題に対して、対立する立場や日本の立場を設定し、感情を意識したロールプレイを行い、アジア州の地域的課題の追究を行う。	高岡麻美 (玉川大学) (東京学芸大学)
数学①	第2学年 鈴木誠	証明とその仕組み	証明の導入場面において、証明を記述することではなく、証明の方針を立てること、読むことを中心とした授業について提案する。	西村圭一 (東京学芸大学)
数学②	第2学年 松本紘一郎	証明とその仕組み	角の二等分線の作図で証明を導入し、その証明を読むことを通して垂線の作図との関係を統合的に考察する。	
理科	第2学年 高田太樹	探究の過程に沿った「ロウソクの科学」	ロウソクが見せる様々な現象を観察することから生徒自ら問題を見だし、既習事項や観察結果を基に、ロウソクが見せる現象を微視的な視点で説明しようとする。	宮内卓也 (東京学芸大学)
美術	第3学年 栗田勉	自己の表現の追及と情報活用	生徒の作品制作が終盤に差し掛かり、自己表現の深まりのための手掛かりや参考になるような作品や参考資料を探し、共感やオマージュを得るための情報活用とは何か。	水野谷憲郎 (元淑徳短期大学)
保健体育①	第1学年 菊地孝太郎	保健体育「測定した体力から運動の習慣化を図ろう！」	新体力テストの記録方法の周知、データの記録や結果の集計を子どもたち一人一人のデバイスで即時的に行えるアプリを活用し、運動の習慣化を眼差す。	
保健体育②	第3学年 谷百合香	保健分野「SDGsから性について考える」	SDGsの目標5「ジェンダー平等」からLGBTQ+について考え、自分の性と向き合う。	
技術	第2学年 諏佐誠	はんだごて製作を通して情報を活用するための「調べる活動」	エネルギー変換の技術の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な活動を通し、能動的に学習を進めるために自ら情報を活用する授業の実践を行う。	
家庭	第3学年 関野かなえ	食の選択—食品の安全と情報—	必要な情報を収集し、健康で安全な生活や健全な食生活を実現するために何が必要か考え、適切に情報を選択する力を育む授業を提案する。	渡瀬典子 (東京学芸大学)
英語	第3学年 山城仁	自らの思考を即時的にスピーキングする力を養うpractice指導～ディベートの指導を通して～	即時的にスピーキングするスキルの育成に向けたpracticeを実践する。その手立てとしてディベートを取り上げ、実施までの過程、かつその実際から生徒の学びと指導を省察する。	大場貴志 (昭和女子大学)